

おいしいお米の香り

筑西市立古里小学校 三年 戸頃 結

わたしは、お米が大スキです。その味はもちろんです。わたしはそのおいしそうなお米の香りが大スキです。

毎朝、台所から、ポコポコとお米がたける音と、おいしそうな香りがしてきます。ほんのりとあまい感じがするやさしい香りです。このお米のたけたかおりをかぐと、ねむりも少しずつとよめて、おなかがすいてきます。

たきたてのお米を口に入れてかむと、そのあまい香りが口いっぱい広がって、お米をもっとおいしくさせます。かおりはお米の味をひきたててくれます。

わたしの家の周りには、田んぼが広がっています。七月の終わりごろ、お母さんといっしょに家の近くをさん歩していた時の事です。とつ然ポツリポツリと雨がふってきました。自転車の、た近所のおばさんは、あわてて自転車を走らせ帰って行きました。しかし、

わたしとお母さんは、少しの間、田んぼを見つめていました。かわいたいねに少しずつ雨がふりそそぎ、青々としたとてもよいお母さんが、あたり一面からだだよ、てきました。わたしもお母さんもこのお母さんが大すぎです。お母さんは、

「いねのいいお母さんがするね。でも雨が強くなる前に急いで帰ろうね。」

と言って、わたしの手を引いて家に向かいました。わたしは、夏にさくいねの花のお母さん

秋の金色にかがやくいねのお母さん、コンバインでがり取りせい米した後の米のお母さん、これらすべてのお母さんが大すぎです。

わたしは、のうぎょうをいねのお母さんといっしょにくらしています。お母さんは、お米を作ったたり家ごとみんなに食べさせてくれます。そんなお母さんのおかげで、わたしは、毎日大すぎないねとお米のお母さんにかこまれて、生活しています。お母さんは、おいしいお米を食べるのに、かかせないものです。